

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	住民間の意思疎通が促進され、村落開発により住民の生活環境が改善される
(2) 事業の必要性(背景)	<p>■対象地域の状況</p> <p>ビハール州は人口約1億人(2011年)の大農業地帯で、人口の86%は農業で生計を立てている。住民の年収はRs.15,000(約20,000円)で、インドの平均年収のRs.36,000(56,000円)に比べるとかなり低く、インドで最も貧困度が高い開発の遅れた地域である。プロジェクト地であるマデープラ郡は、37行政区の一つで行政上の首都であり、人口約200万人(2011年)、ビハール州北東部に位置する。コシ川の氾濫で昔から洪水、旱魃、飢饉が多く発生する地域として負の歴史を背負ってきた。ICAはマデープラ郡にある434ヶ村の中で、最も貧困な地域として指定されている10ヶ村をモデルプロジェクト地域に指定した。</p> <p>洪水が起きた2008年にICAが調査を行った際、村には既に女性自助グループ、農民グループ、青年グループ、幼児教育者等がそれぞれ活動していたが、それらをまとめる上層組織がなく、どのように復興活動を進めて良いかわからずじまい。そこでICAはマデープラ郡の村落開発を推進する委員会の設立を提案し、2010年に現地提携団体 Holistic Child Development India(以下、HCDI)と村人が話し合い、村落開発委員会を設立した。</p> <p>10ヶ村では2012年によやく5ヶ村で道路が整備されたが、残りの5ヶ村ではまだ開通しておらず、農地についても6ヶ村で土石流が残されたまま利用できない状態である。</p> <p>■経済・文化的背景</p> <p>ICAは2008年10月に、洪水の被害が最もひどかったマデープラ郡を中心に初動調査を実施した。その後2010年1月に再度現地住民のニーズ調査を行ったところ、ビハール州の人口の90%は土地無し農民であり、そのうちの40%は地主から土地を借りて生活している事が判明した。土地無し農民の殆どは、土地を借りる条件として毎年生産穀物の50%を地主に返さなければならず、且つ地主から農具や種等を買うための資金もローンで借りるため、その利子は年60%~70%にも及ぶことがわかった。</p> <p>これらの土地無し農民は、インドのカースト制度において、「ムサハラ」と呼ばれる最も階級の低いローカーストの人々で、ハイカーストの人々から『不浄カースト(untouchable)』として扱われている。ハイカーストの人々はムサハラの家で出された水も飲まず、ムサハラはハイカーストの人々の敷地内にある井戸の水を汲むことさえできない。しかし、労働者としては雇用されることから地主と農奴の関係に似ていると推察している。この村での一般的な会議は通常ハイカーストの自宅中庭で行っているため、ムサハラたちは住民会議に参加できず、内容はハイカーストの人々に有利な決断となることが多い。</p> <p>また、インドでは女性のジェンダー問題が深刻で、マデープラ郡においても女子と男子とは同等に扱われず、女子の教育は必要がないと考えられている。大人の場合も女性は男性の前で発言が禁止され、よほどの事でない限り家から出ることが許されない。女子は10代で結婚し、早朝から夜遅くまで、家事、育児、家畜の世話、洗濯、農作業などの肉体的労働の他、女性差別に苦しんでいる。</p> <p>■先行事業(第1期)の成果</p> <p>ICAは2011年に外務省NGO連携無償資金協力を得て、3ヶ村でコミュニティセンターの建設と、並行して地域問題改善のための多様な研修を実施した。その結果、以下の成果が見られた。</p> <p>①完成した3つのコミュニティセンターは、ハイカーストとローカーストの意思疎通を図る協議の場として利用されるだけでなく、月曜から土曜までの午前中は幼児教育の場として、午後には授業の遅れている生徒の補修授業の場としても利用されている。</p> <p>②コミュニティセミナーの成果としては、現地に根強く残っているカースト制度の壁を超え、70名から90名に近い人々が初めて住民会議に参加した。この会議では、男女差別、児童労働、搾取、貧困、農業、教育等の地域が直面する問題について話し合われ、女性も人前で意見を述べる事ができた。また、同時にそれらを解決するための提案も出された。</p> <p>③能力向上トレーニングの成果としては、10ヶ村から女性の収入向上研修に参加した合計56の女性グループが、事業前は高利貸から金利(60%)のローンを借り入れていたのに対し、研修でマイクロクレジットを学んだことにより、銀行から低利息(12%)のローンを借り入れる事ができた。現在、その内の23グループ(120名)がビジネスをスタートさせている。そ</p>

	<p>他にも農民が土壌改善について学び、150名の農民が有機農業の手法を習得し、Rs.5000～Rs.10,000の肥料代が削減され、生産性も向上し、事業前は平均Rs.15,000であった年収が、Rs.30,000～Rs.40,000に増加した。また、これまでマデープラ郡の小学校では、1年生から5年生までが1クラスで学んでいて、その1クラスを一人の教師で教えていたが、住民リーダーが現地政府にクラス数の増加を要望した結果、2013年には1校あたり3クラス、6校で合計18クラスが増えた。これにより少女の入学も増加した。</p> <p><u>開発における地域の需要</u></p> <p>マデープラ郡のように厳然としたカースト制度の残る地域でコミュニティ開発を進めるために、ローカーストの住民が会議に参加できる場所へのコミュニティセンターの建設と、カーストの異なる住民たちが思疎通を図り、双方が建設的で且つ自由に意見を出し合えるようにコミュニティセミナーを通しての意識改革が望まれている。さらに、住民が収入増加を図り生活改善をするために、各種研修(女性のビジネス、農業生産、技術習得、幼児教育、演劇活動等)により能力を向上させることが必要とされている。</p> <p>そのため、本事業では第1期事業で研修や訓練を受けた10か村の住民の知識や技術を定着させ、さらなる能力強化を目指す。また、研修と訓練に並行して、同様の問題を抱える近隣の2か村でコミュニティセンターを建設し問題解決を図る。</p> <p>なお、本事業は特に貧困層・社会的弱者を配慮して、インドの貧困問題の根源である地方部の住民の所得向上に取り組むものであり、日本政府の対インド国別援助計画の重点目標である貧困問題への対処(地域開発に対する支援)と合致しているため、事業実施の意義は高い。</p>
<p>(3)事業内容</p>	<p><u>●コミュニティセンターの建設</u></p> <p>ローカースト、ハイカーストが意思疎通できる場として、コミュニティセンターを建設する。建設地は、第1期事業に引き続き、村落開発委員会及びHCDIとの協議の上、マデープラ郡の中でも必要性の高い2ヶ村(Gopalpur村、Rohta村)を選定した。</p> <p>コミュニティセンターは、洪水の際も水が浸水しないように土台を高くし、災害のときは100人(約25世帯)が避難できるように避難用具も常設する。コミュニティセンターの管理運営はICA、HCDI、各村の村落開発委員会が行い、所有権や維持管理についてはMOUを締結する。コミュニティセンターは村の最高機関との合意でローカーストの人々でも利用できる場所に建設し、土地は村落開発委員会に登録される。維持管理費として、結婚式、研修会、イベントの使用料等を積み立てて運営費に当てる。建設業者との面談、スケジュール調整、建設図面の確認等のためICAから建設の専門家を一度派遣する(10日間)。</p> <p>総利用者数は2ヶ村で3,666人(見込み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 直接利用者:2ヶ村計666人(村落開発委員会34人、女性自助グループ212人、農民79人、幼児教育100人、子供議会107人、青年69人、洋裁25人、特別補修40人) ● その他20種類のトレーニングに各村50人、計1000人が参加予定 ● 間接利用者数として結婚式、イベントなどに各村1000人、計2000人が利用する見込み <p><u>●コミュニティ・セミナーの開催</u></p> <p>コミュニティセンター建設地の2ヶ村(Gopalpur村、Rohta村)で研修を実施する。テーマは「地域に住んでいる人々が安心して生活でき、子孫に誇れるコミュニティを作るために村人は何をしなければならないのか」というタイトルで話し合う。①地域住民の具体的希望、②直面する問題、③戦略的解決策、④行動計画、⑤地域住民がすべき役割分担、⑥フォローアップを行う。フォローアップは日本人駐在員と現地スタッフが年間を通して各村をまわり実施する。問題があれば本部と連絡を取り、解決策を話し合いながら事業を進める。</p> <p><u>①モビライゼーションセミナー</u></p> <p>ICA、HCDI、村落開発委員会、マデープラ郡関係者などが一堂に会するセミナーを開催する。プロジェクトを開始するにあたり、①事業目的の明確化、②コミュニティの基本的データの収集、③活動内容の確認、④事業のフレームワーク、事業の効果を確認し、関係者の事業に対する理解を深める。ICAとHCDIが合同で行う。(1ヶ村あたり50名)</p> <p><u>②コミュニティ開発セミナー</u></p>

資源の発掘とコミュニティの強み、弱みを分析し、強みを生かし、弱みを克服するワークショップを開催する。将来ビジョン、問題点の共有、解決策、実施計画等を話し合い、プロジェクト達成に向けて一致団結して取り組めるように住民の協力体制を確立する。参加者は住民希望者及び村落開発委員会の審査で選定する。(1ヶ村あたり50名)
ICAから専門家を二度派遣する(それぞれ15日間)。

③リーダーシップセミナー

女性自助グループ、農民グループ、青年グループ、幼児教育者等各組織のリーダーに問題解決力、実践行動力、コミュニケーション力等、地域の問題解決に向けて行動を推進していけるリーダー(ファシリテーター)の育成を行う。また、マネージメント能力、会議運営スキルを指導する。(1ヶ村あたり50名)
ICAから専門家を二度派遣する(それぞれ15日間)。

●能力向上トレーニング及び啓蒙活動

ICAはマデープラ郡にある434ヶ村の中で、最も貧困な地域として指定されている10ヶ村(Korlahi, Jamuaha, Gidrahi, Gopalpur, Charbarkurbi, Sukhasan, Routa, Haribola, Barahkurva, Ranipatti)をモデルプロジェクト地域として、以下のトレーニングを行う。各コースのフォローアップは、現地人スタッフと日本人駐在員が年間を通して10ヶ村をまわり実施する。

①女性自助グループ(Self Help Group) 経営研修

第1期事業では10ヶ村から56グループ参加し、銀行から低金利(12%の利息)で借りるマイクロファイナンスの基礎知識として、借入れ方法、グループ内での資金の回転方法、返済方法を指導した。本事業では21グループを追加し、合計で77グループの女性リーダーにマイクロファイナンスを実際に運用するための経営トレーニングを指導する。
年2回(77グループから選出されたリーダー1名、合計77名)

②女性の収入向上研修

第1期事業では竹細工他、鶏、家畜飼育のためのローン貸し出しトレーニングを実施した。本事業では上級編として鶏やヤギの飼育、家畜の病気への対処、地元資源の活用方法(竹、麻繊維)とマーケットリサーチ等を指導する。
(77グループから選出されたリーダーとサブリーダーの2名、合計154名)

③有機農業と水耕栽培研修

a. 日本人による水耕栽培指導

日本人専門家による水耕栽培を指導する。これは自作耕地をもたない小作農民が家のまわりで葉菜類(葉レタス、青梗菜、ハーブ等)、果菜類(トマト、ナス、キュウリ等)を健康補充野菜として生産できるようになるための技術指導をする。換金作物としても可能であり、さらに洪水で土砂の堆積した耕作不適地や、電気の無い地域でも栽培できる方法である。現地農業省職員が技術指導者として農民のフォローアップをする。
(農民44名、農業省職員6名)(ICAから農業専門家を一度15日間派遣)

b. 現地農業専門家による有機農業トレーニング

第1期事業では現地の農業省職員により、現地農業の基本技術として作付け方法、土地の耕し方、種の取り方、保存、作物の増産などについて指導した。本事業では農業の減少、堆肥作り、特にミミズの糞を育苗培土に5~20%混和する葉菜の栽培方法(バーミカルチャー)を指導する。10アール当り100~250kgのミミズの糞を使用して栽培する。これにより生育を促進させて収穫量を増加を目指す。(10ヶ村から50名)

④青少年及び女性のための技術訓練

マデープラ郡の10ヶ村には、溶接技術がないため、農機具や自転車、鍋、釜などが壊れた場合でも修理ができずにいる。第1期事業では、2年間の訓練期間の全課程を終了できることを条件とし、有志の若者を募り、ICA、HCDDI、村落開発委員会によって選抜された青少年8名に対し、自動車整備、自転車修理、コンピューター、電気等の訓練を行った。2年間

	<p>の訓練を終了した後は、技術者として独立することを目指す。本事業では、訓練の2年目として、さらに1年間コルカタ州の訓練学校(St.Peter's Vocational Training)で訓練を受けさせ、将来の技術者を養成する。</p> <p>また、女性については村から出ては行けないとの決まりがあるため、村の中で洋裁の訓練を実施する。本事業では第1期事業実施中から研修要望があった5ヶ村(Routa, Ranipatti, Gopalpur, Barkurwa, charbarkurwa)から10名ずつ、合計50名に洋裁訓練をする。</p> <p>⑤幼児教育教師を対象とした研修 現在10ヶ村の幼稚園で、500名の幼児(2歳~5歳)が10人の教師のもとで、幼児教育を受けている。第1期事業では教師に対して幼児教育の初級コースを実施した。本事業では上級コースとして、幼児の心身発達にともなう健康管理、栄養食、成長のモニタリング、父母へのアドバイス、子供の発達調査等を指導する。研修は夏休みを利用し、授業に支障のないようにする。(幼児教育教師 合計10名)</p> <p>⑥演劇による啓蒙活動を行うための研修 マデーブラ郡の農村住民の識字率が低いため、地域問題を解決する方法として、文字を使わない演劇は地域問題を認識する啓蒙活動として大事な役割を果たしている。演劇は職業ではなく、ボランティア活動として行う。第1期事業では、演劇に興味を持つ若者10名に、基礎的な路上演劇を指導した結果、グループとしての演劇活動が定着し、16,000名の村人に演劇を披露した。本事業では第1期事業に参加した10名に対して演技の指導と合わせ、脚本を書く指導も行う。(第1期事業に参加した若者 合計10名)</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>3年間で基本的な住民参加型のコミュニティ開発を実施し、10ヶ村をモデル地区として、貧困削減のための開発計画モデルプロジェクトの基盤を作る。既に1年目で成果の兆しが現れており、また住民も信頼して共に住民参加の地域を創造しようとしていることから持続発展性の可能性は充分にある。複雑な問題を抱えるインドの他村においても応用できる意義あるプロジェクトとなるであろう。</p> <p>本事業は、ICA、HCDDI、村落開発委員会、現地政府が一体となって活動を推進する。事業期間中に育成されたリーダーが中心となって参加型の住民会議を行い、事業終了後は住民が主体となって、活動を継続することで新たなリーダーが育成される。特に女性リーダーは習得した技術を活用して、小規模事業をスタートさせ、収入向上など地域経済の発展にも繋がる。指導した技法はマニュアルを作成し、参加者以外の住民への技術、知識の伝達を図る。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>●コミュニティセンターの建設 成果 コミュニティセンターの建設により、ローカーストの住民が会議に参加することが可能となり、双方のカーストの参加で議論の公平性が保たれる。 指標 ハイカースト中心であった住民会議に、以下のローカースト利用者数の住民60%が参加するようになる。利用者を記録してリストを作成する。</p> <p>●コミュニティ・セミナーの開催 成果 コミュニティ・セミナーの実施を通して、住民がコミュニティの問題を理解し、解決に向けて現地政府と話し合いながら解決していく。指標 65%以上の参加者が地域の実情を理解し、問題解決への協力体制が構築される。リーダーが役割を認識し、現地政府に提案できるようになる。リーダーの役割はセミナーで確認しフォローアップする。</p> <p>●能力向上トレーニング及び啓蒙活動 成果 各種技術研修を通して具体的に活動が開始され、収入向上及び生活改善がなされると同時に農村の人材開発に寄与する。 指標 ①経営研修を受けた77の女性自助グループがビジネスをスタートさせるためにグループの銀行口座を開設し、その内40グループ(200名)が実際に収益を上げる事業を行う(アンケート調査)。②収入向上研修を受けた77の女性自助グループの2期目の月間収入が平均約Rs.3,000~Rs.5,000に向上する(インタビュー調査)。③農業研修で農薬使用を25%減少し、土壌改善により生産性が20%向上する。農家の年間収入は平均Rs.15,000</p>

から Rs.30,000～Rs40,000 に向上する。④青年及び女性の技術向上で、月 5,000 ルピーが得られる。⑤今まで一度も幼児教育訓練を受けた事のない教師が幼児教育訓練を受けることで知識が増え、教え方が良くなり適切な子供のケアができるようになる。教師の質の向上についてのアンケート調査による自己評価。⑥これまで脚本を書けなかった演劇グループが研修を通して自ら脚本を書けるようになり、その脚本をもとに上演することで地域の問題解決につながる。教育、ジェンダー等少なくとも 5 回の違ったテーマで 10 ヶ村を巡回する。その上演を観た住民の反応等を見る。